

魚突き～私と魚突きとの関わり～



いしだ やすひさ
形成外科 石田泰久先生

4月から前任の森大祐先生に代わり赴任しました形成外科の石田泰久です。これまで関西圏の病院を幾つか勤務した後、この度縁あって勤めさせて頂くことになりました。大学時代を島根で過ごしており、部活動や遊びに岡山にも度々来ており、また妻の実家が岡山市内ということもあり、慣れ親しんだ土地で快適に過ごしています。

今回この原稿執筆のご依頼を頂きまして正直何を書くか迷いました。形成外科やフットケア外来については院内ポスターで宣伝して頂いているし、私の浅い人生経験から教訓ある立派な事も書けない…。しかも1000文字程度のノルマ…。いっそ原

稿締切前に病院から逃亡することも考えましたが、家にはまだ幼い子がいることを考えるとここで石田家の収入を途絶えさす訳にもいきません。

そこで興味ない方が多数かも知れませんが、私の趣味の魚突きについて書かせて頂くことにしました。興味ない方はこの文章を読む時間ももったいないのでここで読み止めて頂いて結構です。ここまでお読みいただきありがとうございます。

私と魚突きとの出会いはかれこれ12年程前。たまたま友人が釣具屋で売っている500円程度のヤス(細い棒に魚を突くための小さな銚がついたもの)を使って海で魚を突いて遊んでいたのに誘われたことに始まります。そこから素潜りの練習を積み、道具(銚、シュノーケル、フィン)の改善などを経て、今は主に夏に日本海で石鯛、スズキ、チヌ、平目などを狙って狩猟活動しています。ちなみによく質問を受けますが、貝やウニ海草、海鼠なまこなどあまり動かない“静物”を採ることや酸素ポンベを背負って突きすることは漁業調整法違反となるので公的な

海では採りません。またこの漁業調整法は各都道府県で異なり、これに対する地元漁師の捕え方も違うので繊細な注意と事前調査が必要です。

基本的に食べる魚を獲り、食べない魚・小さい魚は獲らない、獲った魚を美味しく調理することをモットーにしています。魚→肴です。某芸人がしている“獲ったぞー!”と一緒にされることは多いですが、彼の獲り方や調理法には節操や美しさがなく技術向上がありません。

と、色々書きましたが気付けばノルマの1000文字近くになりましたのでこの辺で終わりにします。もしも次回書く機会があれば“魚突き～実践編～”をテーマとさせて頂きませう。この文章で編集部から呆れられたら私に依頼は来ないかもしれませうが…。

貴重な紙面を私の独り言で埋めてしまい申し訳ありません。これからも宜しく願いいたします。

石田先生は月・水・木・金・土(第1,2)の形成外科外来とフットケア外来、入院患者さんの治療を担当されています。

Doctor 's Eyes